



第3次 中期計画

(令和3年4月～令和8年3月)

学校法人大阪青山学園

大阪青山大学
青山幼稚園

第3次中期計画策定にあたって

理事長メッセージ

学校法人大阪青山学園は昭和42年に設置認可を受け大阪青山女子短期大学、青山幼稚園を開設して以来50有余年と歴史を積み重ねてきました。この間、国宝、重要文化財などを収蔵し、社会教育の一翼を担った大阪青山歴史文学博物館の建設、平成17年には社会の需要に応えるべく、大阪青山大学を設置し、管理栄養士を養成する健康栄養学科を開設しました。その後健康こども学科（現在は子ども教育学科と改称）、看護学科を順次開設のうえ専門職を養成し、社会から期待される高等教育機関として発展をしてきました。

今般の新型コロナウイルスの感染拡大の影響で社会は大混乱し、教育界も教育の質を維持するため今まで経験したことのない対応を求められています。そのような社会情勢のなかではありますが、未来へつなげる学園の在り方を議論し、2025年までの第三次中期計画を策定いたしました。

第3次中期計画は、専門的職業人の養成という使命にもとづき「対人援助の専門性と人間性を育む大阪青山の新しいステージへ」というビジョンを設定し、四項目の目指す学園像を掲げました。このビジョンを実現するため、教育内容の充実と経営の安定を図る様々な目標値を設けております。新たな取り組み事項として、withコロナ及びafterコロナへの対応があげられます。継続して安定的教育事業を展開するために施設設備の整備と学生への支援を引き続き実施していき教育の質の低下を招かないようにいたします。また戦略的な広報活動を展開し認知度と関心度を向上させ学生・園児の確保に努めて参ります。

これらの計画を推進し目標を達成するためには、教職員の情報共有と連携・連帯が不可欠であるとともに、包括協定を締結している自治体との強い協力関係が必要であることは言うに及びません。また、大阪青山大学・大阪青山大学短期大学部教育後援会さま、大阪青山大学・大阪青山大学短期大学部同窓会さま、青山幼稚園後援育友会さま、学生園児の保護者の皆様など多くのステークホルダーには情報の提供を十分に行い、透明度の高い学園運営を行ってまいります。ご理解とご協力がこの事業の推進に欠かすことができませんので温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが平成28年（2016年）に策定した経営改善計画は当初計画をほぼ達成しましたが、箕面キャンパスへの主要機能移転事業については引き続き遂行して参ります。また第3次中期計画に記載したもののほか短期大学部廃止後の大学の拡大充実策、幼稚園の安定経営策など中長期ビジョンとしての学園の将来構想についても鋭意検討していることを申し添え、挨拶といたします。

学校法人 大阪青山学園
理事長 眞下 利晴

学長メッセージ

大学は、いま、転換期の只中にあります。転換期とは、ある特定の時点を限定的にさすのではなく、変化や変更の一連のプロセスの期間を意味します。そして、そのさいの変化や変更を導くのは、取り組むべき課題であります。たとえば、2018年問題と特徴づけられた18歳人口の減少のさらなる深刻化への対応があります。また、ますます強く提起されている大学間や法人間の連携・統合・合併への向き合い方もあります。さらに、現実空間の膨大なデータを仮想空間にビッグデータとして集積して人工知能によるその解析結果を現実空間の人間にフィードバックする、第五期科学技術基本計画で描かれたSociety5.0に向けた人材養成も迫られています。あるいは、経済グローバル化の前景化のなかで進行しているSDGsのグローバル化への応答もあります。転換期を成す課題は、枚挙に暇がないほどです。大学はこれらに対する多面的な対応が求められています。

とりわけ大学教育にかかわっては、この間、3ポリシーの明確化、学上力の保証、主体的な学修時間の確保、教育課程の組織的・体系的な編成、学修成果や教育活動の評価など、多岐にわたる教育活動の質保証が矢継ぎ早に求められてきています。そのうえさらに、「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」をふまえた「教学マネジメント指針」（中央教育審議会大学分科会）が昨年（令和2年）公表され、「学修者本位の教育」の観点を前提にした、大学における内部質保証体制の確立が提言されるにいたっています。一方、そうした施策を凌駕するかのよう、新型コロナウイルス感染拡大への対応も余儀なくされつづけています。しかし、両者は別個にあるのではなく、100年に一度といわれるパンデミックもまた、たんに対面授業とオンライン授業の比率問題にとどまらず、学生に「保障」すべき学びの質とは何か、どのように「保障」するのか、如何にその質を評価できるのかなどのいっそうの探究という不可避の通底する課題を提起しています。

大阪青山大学は、このような山積する多くの課題から今後5カ年という期間中にとくに着実に達成すべき課題を検討・精選して、第3次中期計画を立てました。信ずる価値を選択するにとどまる「ポスト真実」といわれる時代にあって真理・真実などを追究する学術の中心としての大学、ならびに学問の自由を背景として自主性と自律性が尊重されるべき大学という理念を忘れず、かつ本学の建学の精神と専門的職業人の養成という教育目的をふまえながら、タグラインにある教職員・学生・保護者・地域がともども「繋がる」教育をめざしての中期計画であります。

教職員一同、このような理念・精神・目的・コンセプトに迫るべく、対話的関係を築きながら協力・協働して努力して参りたいと思います。関係者の皆様におかれましては、引き続きご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

大阪青山大学
学長 久田 敏彦

法人基本情報

i 所在地

- ◎学校法人大阪青山学園 大阪府箕面市新稲2丁目11番1号
- ◎大阪青山大学
 - 箕面キャンパス 大阪府箕面市新稲2丁目11番1号
 - 北摂キャンパス 兵庫県川西市長尾町9-8
- ◎大阪青山大学短期大学部 大阪府箕面市新稲2丁目11番1号
- ◎青山幼稚園 大阪府吹田市青山台4丁目5番

ii 設置する学校

- 1 大阪青山大学
 - 健康科学部 健康栄養学科
 - 子ども教育学科
 - 看護学科
- 2 大阪青山大学短期大学部（令和2年4月学生募集停止）
 - 調理製菓学科 調理コース／製菓コース
- 3 青山幼稚園

iii 大学、短期大学及び幼稚園の入学定員、収容定員及び在籍者数（令和2年5月1日現在）

区分		入学定員	収容定員	在籍者数	備考
大学	健康科学部健康栄養学科	80	320	276	平成17年4月設置
	健康科学部子ども教育学科	80	340	321	平成20年4月設置(平成25年度名称変更)
	健康科学部看護学科	80	320	334	平成27年4月設置
	計	240	980	931	
短期大学	調理製菓学科	—	60	34	令和2年4月学生募集停止
	計	—	60	34	
合計		240	1,040	965	
幼稚園		—	590	358	※認可定員

※子ども教育学科の収容定員には、編入学定員（20名）を含む。

iv 役員・教職員数

- 1 役員数（令和2年4月1日現在） 理事8名、監事2名、評議員17名
- 2 教職員数（令和2年5月1日現在）

	教授	准教授	専任講師	助教	助手	教諭	事務職員
法人	—	—	—	—	—	—	1
大学	29	12	15	11	5	—	34
短期大学	2	4	0	0	0	—	2
幼稚園	—	—	—	—	—	24	1

第2次中期計画について

第2次中期計画は、18歳人口の減少、近隣同系統大学との競争激化、新たな高等教育機関の制度化など厳しい環境のもと、高等教育機関としてその役割を果たし続けることを目標として、平成28年4月に策定された。

その後、中央教育審議会が「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」を平成30年11月に答申し、今後の高等教育のあり方を方向づけるにいたった。一方、本学もその存続ならびに充実・発展に関して不可避の諸課題に取り組みざるをえない新たな状況を迎えていた。こうした中、第2次中期計画の内容を基本的に踏襲しつつ、学長のリーダーシップによる大学改革を強力に推進することが重要であるという認識のもと、「修正版」として第2次中期計画リバイバルプランを平成31年4月に策定した。

この間(平成28年4月～令和3年3月)、令和2年度に短期大学部の募集停止を行うなど厳しい対応を余儀なくされたが、一方で、平成27年に新設した看護学科が完成に至り、健康栄養学科においてはコース制が導入され、施設・設備の整備も実施された。学長のリーダーシップによる大学改革および業務運営の見直しを推進した結果、財務内容は改善傾向にある。

第2次中期計画において達成できなかった重要事項については、第3次中期計画で引き続き取り組んでいく。大学を取り巻く環境は、コロナ禍の影響もあり、さらに厳しくなると想定される。また、私学法改正により中期計画の重要性が増していることから、第3次中期計画は、幼稚園も含めて学園全体として新たなスタイルで計画策定を行う。

<第2次中期計画における主な実施事項>

▷学生数の増加

- ・平成27年に新設した看護学科が完成に至り、学生数が増加

▷教育活動等に関する措置

- ・健康栄養学科においてコース制を導入
- ・子ども教育学科においてカリキュラム変更への対応
- ・GPAの活用

▷施設、設備の更新

- ・大学：学生食堂のリニューアル、ピアノ教室・個別練習室のリニューアル
- ・幼稚園：南園舎の改修、給食室のリニューアル

▷財務内容の改善

- ・大学改革、コスト削減による財務内容の改善

計画期間中の教育活動収入

112%

(令和2年度見込／平成28年度実績)

計画期間中の経常収支差額

47%改善

(令和2年度改善見込／平成28年度実績)

第3次中期計画の理念体系

建学の精神

「高い知性と学識と豊かな情操を
兼ね備えた品位ある人材の育成」

タグライン

「輝く未来へ 繋がる教育」

第3次中期計画ビジョン

第3次中期計画において 目指す学園像

第3次中期計画ビジョン

対人援助の専門性と人間性を育む大阪青山の新しいステージへ

第3次中期計画において目指す学園像

1. 学生・教職員・保護者等のステークホルダーの声を聴く学園
2. 少人数制による丁寧な教育で学生・園児の個性を生かす学園
3. 日本の伝統文化を重んじつつ、地域社会と共に発展する学園
4. 変化に適応する強靱な経営基盤で期待に応える学園

第3次中期計画における主要目標

入学定員の確保

大学

- ▶ 入学定員充足率 100%
- ▶ 年間志願者数（最終年度）30%増

幼稚園

- ▶ 入園人数の確保 100人

学生・保護者の満足度の向上

大学

- ▶ 学生満足度 80%以上

幼稚園

- ▶ 保護者満足度 80%以上

キャリア支援体制の充実

大学

- ▶ 国家試験合格率

管理栄養士	90%
看護師	100%
保健師	100%
- ▶ 保育士・教員採用試験合格率 100%
- ▶ 実就職率 95%

財務内容の改善

- ▶ 財務目標（最終年度）

教育活動収支差額比率	3%
経常収支差額比率	3%
私学事業団経営判断指標	A3

主な取組事項

I. 教育研究等に関する中期計画

1. 教育活動等に関する取組

(1) 入学定員の確保

<募集活動の強化>

- ▶高等学校との関係強化
- ▶奨学金制度の見直し **NEW**

<広報活動の強化>

- ▶オープンキャンパスの充実
- ▶多様な広告媒体の活用
- 青山幼稚園 **NEW**
- ▶幼稚園のHPリニューアル、看板広告の実施

(2) 教育改革の実現

<教学マネジメントの確立>

- ▶アセスメントポリシーに基づく教育改善
- ▶学生指導におけるGPAの有効活用
- ▶アクティブ・ラーニング（※1）型授業の拡充
- ▶クラス担任・チューター制度（※2）の機能発揮
- ▶入学前教育と初年次教育の充実
- ▶共通教育（「伝統文化」を含む）の充実

<分野毎の取組>

▶健康栄養学科の取組

- 魅力度向上および新コースの検討
- 産学連携による商品開発 **NEW**
- 国家試験対策の充実による合格率改善

▶子ども教育学科の取組 **NEW**

- 子ども教育学科の学部化
- 教員免許（特別支援）等の新たな教育課程の検討

青山幼稚園

▶看護学科の取組 **NEW**

- 電子端末等の教育ツールの導入
- カリキュラム改正への対応

▶青山幼稚園の取組 **NEW**

- 園児の成長に寄り添う保育内容の充実
- 預かり保育の時間延長
- 課外メニューの充実

<研究に関する取組>

▶若手研究員の研究活動の支援強化

▶学長裁量経費の積極活用

▶学科横断的なテーマによる共同研究の拡充

(3) DX (※3) ・ ICT (※4) 化を含む教育環境の整備

▶学内インフラの整備等

NEW

○学内ネットワーク環境の整備

○遠隔授業用のスタジオの整備

○授業内容充実のための教員向けの研修実施

○図書館機能の充実

▶ICT化への対応

NEW

○健康栄養学科 : 学生の個別指導システムの検討

○子ども教育学科 : GIGAスクール (※5) 構想に対応した実習環境の整備

○看護学科 : PC必携化による実習でのICT活用

青山幼稚園

▶ICTの活用および遊具等の設備の更新

NEW

○幼稚園経営、幼児教育におけるICTの活用

○遊具等の既存設備の計画的な修繕、更新

(4) 学生・保護者の満足度の向上

大阪青山大学

青山幼稚園

▶アンケート、意見の活用

○学生・保護者のアンケート意見の活用

○苦情や要望に対する満足度向上の観点からの検証

(5) キャリア支援体制の充実

▶ 国家試験対策等の充実

- 学力に応じた個別指導 ▶ NEW
- e-ラーニング（※6）の導入 ▶ NEW
- 外部サポートの活用

▶ 就職対策の充実

- 採用環境の変化への対応 ▶ NEW
- 求人システムの積極的活用
- 就職支援プログラムの充実

(6) withコロナ/afterコロナへの対応

▶ 安定的な教育事業の展開 ▶ NEW

- 国等の方針に沿った感染防止対策の徹底
- 対面・遠隔授業の併用のためのインフラ整備

▶ 学びの継続のための学生支援 ▶ NEW

- 奨学金等の学生支援の継続

2. 地域社会との連携に関する取組

大阪青山大学

- ▶ 地域連携センター（仮称）の設置 ▶ NEW
- ▶ 協定締結市（箕面市・池田市・川西市）との連携強化
- ▶ ガンバ大阪とのイベント等での連携

青山幼稚園

▶ NEW

- ▶ 運動会等のイベントへの地域住民の参加
- ▶ 放課後クラブ活動への近隣児童の参加

3. 卒業（園）生、保護者、同窓会に関する取組

大阪青山大学

- ▶ 大学の卒業生、保護者への対応
 - 学園広報誌の定期的な送付
 - ホームカミングデー（※7）の開催
 - 同窓会活動のサポート

青山幼稚園

▶ NEW

- ▶ 幼稚園の卒園生、保護者への対応
 - 卒園生に対する招待イベントの充実
 - 幼稚園情報の積極的な提供

Ⅱ. 業務運営に関する中期計画

1. ガバナンス・コードに沿った経営強化

▶学長のリーダーシップ
による組織の強化

▶理事会・評議員会等
による適切な運営

▶中期計画の策定、進捗管
理

▶適時・適切な情報開示

▶内部監査の整備

2. 人事制度の運用見直し

▶社会の変化に対応した
労働環境の整備 **NEW**

▶人事評価制度の定着

▶SD（※8）/FD（※9）等
の研修プログラムの整備・
実施

3. リスクマネジメント

▶自然災害等に対するBCP（※10）

▶情報セキュリティ対策の整備、強化

▶業務運営、教育・研究活動における不正行為、ハラス
メントの根絶

4. 戦略的な広報および情報公開の促進

▶戦略的な広報活動の展開

- 広報誌等の学内コミュニケーション充実
- ホームページ等による積極的な情報公開

▶地域を含む外部への情報発信、連携

- イベント等を通じた地域への貢献
- 体育館の地元住民への開放等

▶ブランディング強化

- 他との差別化等のブランディング強化策の検討

5. 業務の効率化による生産性向上

▶業務プロセスの見直し **NEW**

- デジタル化、押印見直し等

▶外部委託業務の効率化 **NEW**

- 警備方法、スクールバスの運行見直し等

▶非効率業務の見直し

▶人事、稟議等のシステム化 **NEW**

6. 施設・設備の更新

大阪青山大学

▶大学の施設・設備の更新

- 中期計画に沿った設備の更新・修繕
- 箕面キャンパスの本格リニューアルの検討 **NEW**
- 北摂キャンパス・博物館の活用

青山幼稚園

▶幼稚園の施設・設備の更新

- 中期計画の策定および計画に沿った既存施設・設備の更新・修繕 **NEW**

Ⅲ. 財務内容に関する中期計画

1. 事業活動収入の増加

- ▶教育活動収入の拡大
 - 定員確保、園児募集による収入の拡大
- ▶寄付金収入の増加

2. 事業活動支出の圧縮

- ▶適切な人件費コントロール
- ▶管理経費の圧縮

【語句の説明】

- ※1 アクティブ・ラーニング：教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称のこと。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習に加え、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法とされる。
- ※2 チューター制度：少人数の学生グループに対して一人の教員が「チューター」となり、よりきめ細かい学習支援を実施する制度
- ※3 DX：データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること。(Digital Transformationの略)
- ※4 ICT：情報通信技術のこと。(Information and Communication Technologyの略)
- ※5 GIGAスクール構想：1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育環境を実現しようとする文部科学省の構想のこと。(GIGA=Global and Innovation Gateway for Allの略)
- ※6 e-ラーニング：学びを電子化したもので、パソコンやタブレット、スマートフォン等を使ってインターネットを利用して学ぶ学習形態のこと。
- ※7 ホームカミングデー：卒業生などを大学に招いて歓待し、大学との絆を深めるイベント
- ※8 SD：教職員が大学等の運営に必要な知識・技能を身に付け、能力・資質を向上させるための取り組みのこと。(Staff Developmentの略)
- ※9 FD：学習者を中心とした大学改革を目指して、授業方法やカリキュラム内容を改善・向上させるための組織的取り組みのこと。(Faculty Developmentの略)
- ※10 BCP：事業継続計画のことで、法人が自然災害、大火災、テロ攻撃などの緊急事態に遭遇した場合において、事業資産の損害を最小限にとどめつつ、中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために、平常時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための方法、手段などを取り決めておく計画のこと。(Business Continuity Planの略)



学校法人大阪青山学園